

I. 一般目標

- 1) 整形外科医としてのみならず一般臨床医としての基本的な、脊椎・脊髄・運動器に対する診療にあたるために、必要な知識、技能、態度を経験し理解できる。
- 2) 災害外傷、交通外傷などの緊急を要する疾患患者の初期治療にあたるために、必要な臨床的能力を身に付けることができる。
- 3) 高齢化社会に対応した脊椎・脊髄疾患、四肢の運動障害疾患患者の診療にあたるために、それに関する臨床的能力を身に付けることができる。
- 4) リハビリテーション及び社会復帰、日常生活への復帰、Quality of life について理解できる。

II. 担当する診療科

整形外科、リハビリテーション科

III. 研修期間

1ヶ月以上

IV. 指導スタッフ

	氏名	職名・担当	医師登録年月	指導医講習
指導責任者	松田 英三	整形外科部長	1990.5	◎
指導医	上田 佳史	リハビリテーション科部長	1996.4	◎
	多賀 正	整形外科部長	2000.4	

V. 基本的な指導方法

1. 指導責任者とともに入院患者を受け持ち、入院時に問診、身体所見をとり診療計画をたてる。
2. 指導責任者とともに病棟における回診、診察、治療を行う。
3. 手術に助手として参加し、指導責任者とともに術後管理を行う。
4. 外来にて新患の問診を行う。その後、指導責任者の外来診察につき、外来患者の診察、治療、処置を学ぶ。
5. 上級医とともに当直業務を行う。

VI. 基本的週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月		病棟・外来診察					手術			
火		病棟・外来診察					手術			
水		病棟・外来診察					手術			
木		病棟・外来診察					手術			
金		病棟・外来診察					手術			
土		病棟・外来診察								

VII. 行動目標 (→p12)

VIII. 経験目標 (→p13~21)

A. 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 医療面接：患者・家族との信頼関係を構築し、診断治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、
 - ・医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解できる。
 - ・病歴の聴取と記録ができる。
 - ・患者・家族への適切な指示、指導ができる。
- (2) 基本的な身体診察法：病態の把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記録するために、骨・関節・筋肉系の診察ができ、記録できる。
- (3) 基本的な臨床検査：病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体観察から得られた情報をもとに必要な検査を解釈するために、以下の検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる(下線は必ず経験すること)。

単純X線検査、造影X線検査、X線CT検査、MRI検査

- (4) 基本的治療法：基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、
 - ・療養指導(安静度・体位・食事・入浴・排泄・環境整備を含む)ができる。
 - ・薬剤の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。
- (5) 医療記録：チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、
 - ・診療録をPOSに従って記載し、管理できる。
 - ・処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
 - ・診断書、死亡診断書、死体検案書他の書類を作成し、管理できる。
 - ・紹介状・紹介返書を作成でき、管理できる。
- (6) 診療計画：保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診断書を作成し、評価するために、
 - ・診療計画(診断・治療・患者家族への説明を含む)を作成できる。
 - ・入院の適応を判断できる。

B. 経験すべき症状・病態・疾患 (→p15~16の一覧表参照)

患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を行う能力を獲得するために、

1. 頻度の高い以下の症状を経験し、鑑別できる。

腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれ

2. 緊急を要する以下の症状・病態を経験し、初期治療に参加できる。

外傷

2. 経験が求められる疾患・病態骨折、関節・靭帯の損傷及び障害、骨粗鬆症、
脊柱障害(腰椎椎間板ヘルニア)



脊椎内視鏡手術